

【社会】

李登輝氏再び来日計画 あすに続き来月18 21日

2007年5月29日 夕刊

台湾の李登輝前総統(84)が三十日からの来日に続き、来月中旬にも再び日本を訪れる計画があることが二十九日、日台関係筋の話で分かった。

短期間での再来日の実現すれば、李氏を「台湾独立派の中心人物」とみなしてきた中国が強く反発することが予想される。

関係筋によると、李氏の再来日の目的は来月二十日に東京都内で行われる元参院議員で、今年三月に死去した椎名素夫氏の「しのぶ会」への出席。椎名氏と親交の深かった李氏は私人の立場で列席するが、多数の有力政治家も出席するとみられ、李氏と接触し意見交換する可能性がある。滞在期間は六月十八 - 二十一日と短期間の予定だ。

李氏は今月三十日から六月九日まで日台学術交流団体「アジア・オープン・フォーラム」の招きで来日。観光旅行が主な目的だが、東京などで講演も行う。

日本政府は二〇〇五年から台湾住民の観光ビザを免除しており、李氏の訪日にもビザ免除が適用される。

短期間の相次ぐ来日の実現すれば、中国への配慮から李氏の来日に慎重姿勢を示してきた日本政府は新たな局面に立たされる。

李氏は二〇〇〇年に台湾総統を退いた後、〇一年四月には心臓病の治療で、〇四年十二月には観光目的でそれぞれ来日している。

Copyright © The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.